〆切（しめきり）神社

古い時代は、恐しい人柱の風習がありました。川俣の〆切神社にも、その人柱の言い伝えが残されています。

利根川は、川俣（昭和橋の附近）から、東と南の流れに別れ現在の会の川は、利根川の本流だったと言われますが、それを〆切り、東の流れを本流にした時の話です。

激しい濁流を〆切ることは難しい工事のために、お寺の住職が祈とうをするなど大変なさわぎでした。村人が思案にくれていると、一人の行者が「今年は午年だ、午年の人が人柱にならないと〆切ることは出来ねえ」と、はっきりした口調で言い終わると、ものも言わず裸になり数珠を片手に「アッ」と、いうまに「ザンブリ」濁流満々の中に身を投じました。村人は音をたてゝ流れる濁流を、いつまでもいつまでも両手を合わせて見守りました。行者の話し通り、ついに人柱の犠牲によって工事は完成しました。自から人柱となったのは羽黒行者という説ですが、その人の尊い霊を〆切神社を建立しお祀りしました。当時の社殿は長い歳月と共にくち果てゝしまい、明治二年に〆切神社と刻んだ石碑に変わりました。そして、利根川の幹川締切跡は由緒深い遺跡として、昭和三十三年市の文化財保護指定を受け、その記念碑が建てられました。

〆切神社の石碑と記念碑